

令和4年度 教育課程研究協議会

Art
美術

○教科の柱書(小学校)

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

部会全体説明

■図画工作・美術科の指導と授業改善

- ・目標の改善
- ・内容の改善
- ・指導と評価の一体化

■図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

- ・ICTの活用場面
- ・活用の具体例

Art
図画工作・美術

○生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力について (小学校)

児童が作りだす形や色、作品などや、家庭や地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力

○教科の柱書(中学校)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

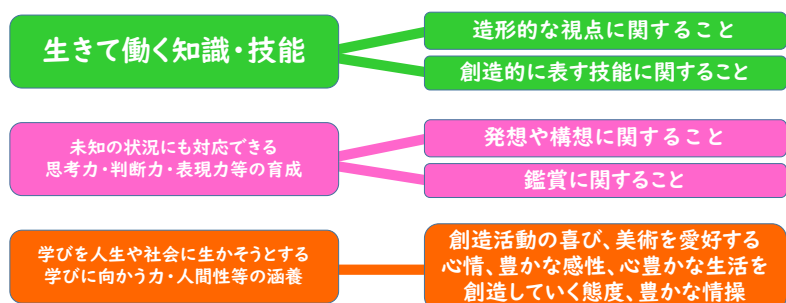
文部科学省「中学校学習指導要領解説 図画工作 P.9」

○生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力について(中学校)

造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の形や色彩などの造形の要素に着目し、それらによるコミュニケーションを通して、一人一人の生徒が自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え、生活や社会と豊かに関わるができるようにするための資質・能力

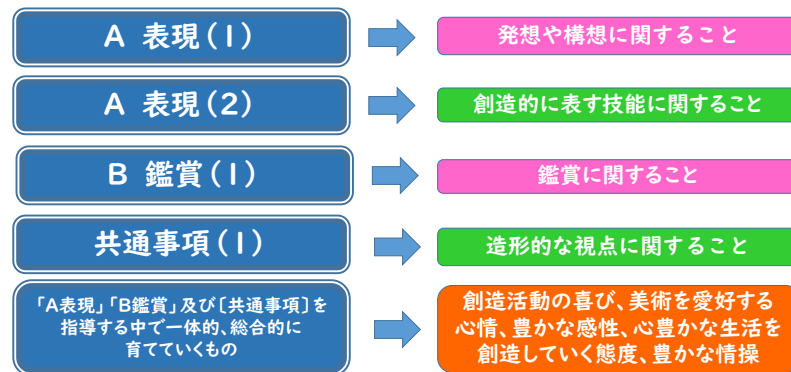
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.11」

○図画工作・美術科の目標



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.12~16」
 文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.13~20」

○内容の改善・・・教科の目標に対応して内容を整理



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.12~16」
 文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.13~20」

○造形的な見方・考え方とは

図画工作・美術科の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方 → **深い学びのための鍵!**



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.10~11」
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.10」

○内容の改善(図画工作)

[共通事項] (低学年)

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと (知識)
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと (思考力・判断力・表現力等)

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.32-34」

○共通事項の具体例(小学校)

- アについて (知識)
低学年…形や色、触った感じ
中学年…形や色、組み合わせによる感じ、色の明るさなど
高学年…動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなど
- イについて (思・判・表)
形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.114~116」

○内容の改善(美術)

[共通事項]

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること (知識)
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること (知識)

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.45~50」

○共通事項の具体例(中学校)

- アについて
- (ア)色彩の色味や明るさ、鮮やかさ
 - (イ)材料の性質や質感
 - (ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなど
 - (エ)形や色彩などの組み合わせによる構成の美しさ
 - (オ)余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢など
- イについて
- ・造形的な特徴を基に、見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること
 - ・造形的な特徴を基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.125~129」

○内容の改善(図画工作・美術)

[共通事項]

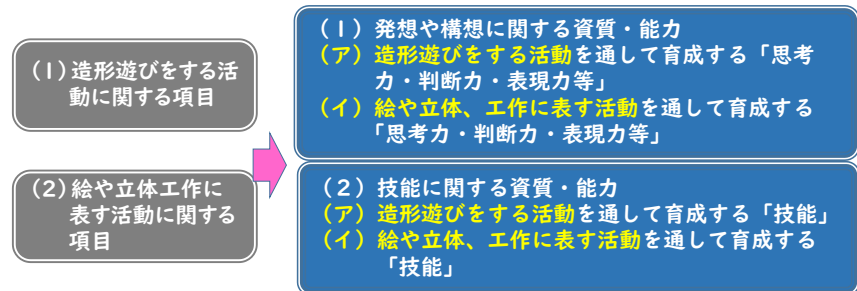
- ・表現及び鑑賞の活動の中で、**共通に必要な資質・能力**
- ・児童生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え、**実感を伴いながら、理解することが大切。**

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.22」
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.29~30」

○内容の改善…「A表現」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。

H20年学習指導要領 「A表現」

新学習指導要領 「A表現」

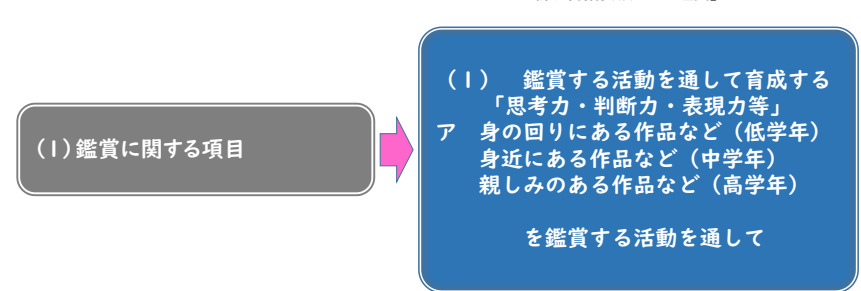


文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.25~31」

○内容の改善…「B鑑賞」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。

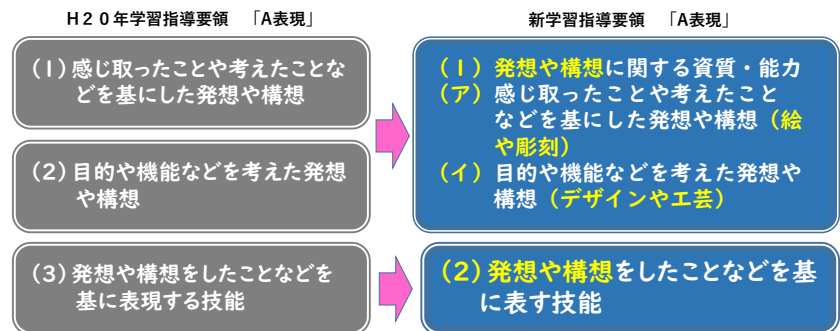
H20年学習指導要領 「B鑑賞」

新学習指導要領 「B鑑賞」



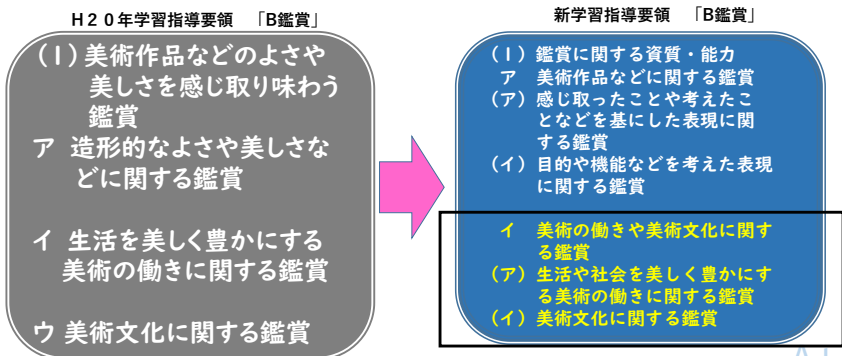
文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.31~32」

○内容の改善…「A表現」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。



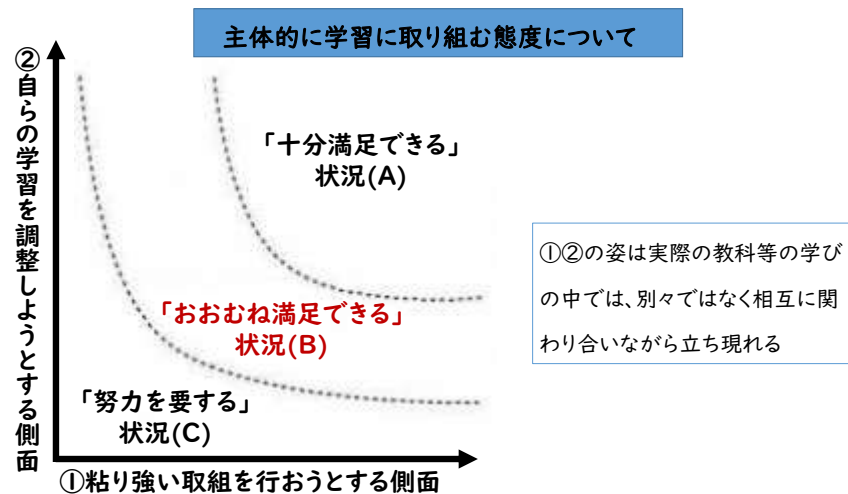
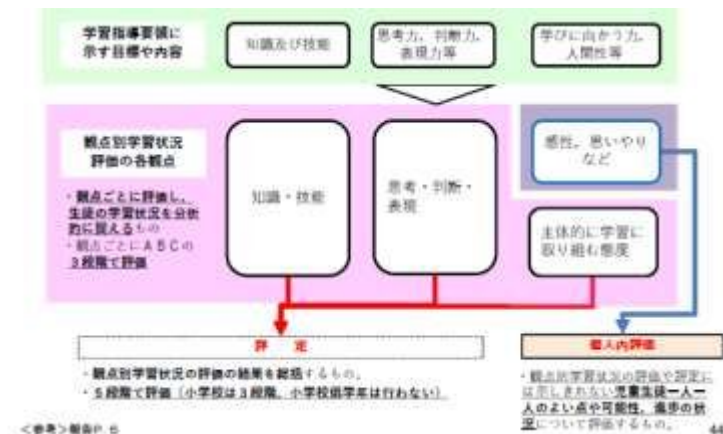
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.31~40」

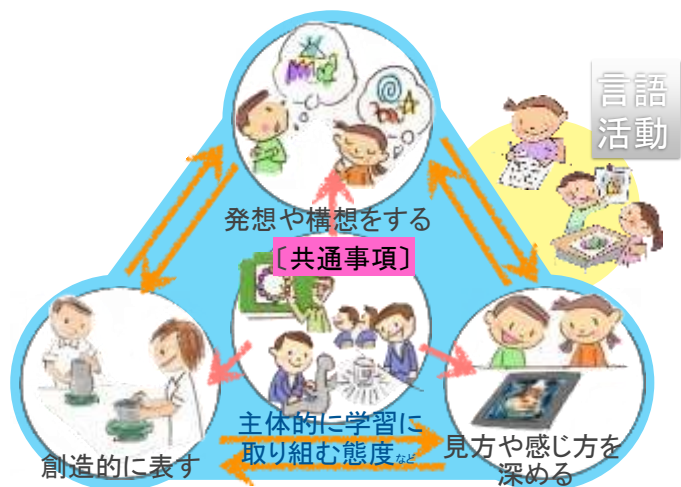
○内容の改善…「B鑑賞」の内容を「美術作品など」「美術や美術の働きや美術文化」に関する事項で整理。



文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.40~45」

実態を把握し、指導に生かす





「指導と評価の一体化」について

Art

学習評価の改善の基本方針

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われたことでも、必要性・妥当性が認められないものは、見直していくこと

文部科学省「学習評価及び指導要録等の改善等について(通知)」より

学習評価の進め方

1 題材の目標を作成

○学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成

2 題材の評価規準を作成

○児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成

3 「指導と評価の計画」を作成

○1、2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画
○どのような評価資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする

授業を行う

○3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる

4 観点ごとに総括的評価

○集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う



指導と評価の計画

単元	教材	評価の観点、評価方法			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	その他
1	「花に心を込めて」の学習活動				
2	「花に心を込めて」の学習活動				
3	「花に心を込めて」の学習活動				
4	「花に心を込めて」の学習活動				

題材のまとまりの中で適切に評価を実施

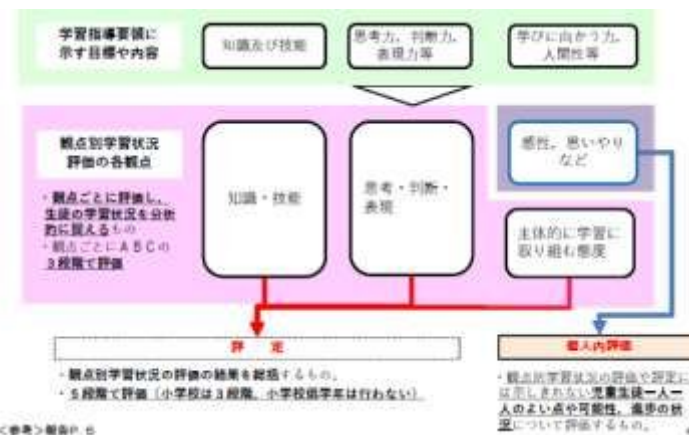
計画的に評価の時期や評価方法を考えておくことが必要

事例3「花に心を込めて」
第3学年及び第4学年より



- 「1」欄料の評価毎項に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、評価を行う。
- ◎「2」欄料の評価毎項に照らして、児童の学習状況を把握し、評価を行う。

実態を把握し、指導に生かす



図画工作・美術科の指導におけるICTの活用

○小学校図画工作科の指導におけるICTの活用

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する

学習過程でICTを活用

- 表現 (感じ取ったことや想像したことなどを造形的に表す)
- 鑑賞 (作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める)



○小学校図画工作科の指導におけるICTの活用

- 資質・能力の育成と関連付けて活用
- 感性や想像力を働かせる場面を大切に活用
- 発達の段階や経験に応じて適切に活用

実際にものに触れたり見たりすることが、
図画工作科の資質・能力の育成において重要

学習のねらいに応じて**必要性を十分に検討**して活用



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○中学校美術科の指導におけるICTの活用

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する



実物を見たり、
実際に対象に
触れたりするなどして
感覚で直接感じ取らせる
学習活動

ICTを活用する学習活動



題材のねらいに応じて**吟味し、効果的な指導**を行う

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○図画工作・美術科の指導におけるICTの活用場面と具体例

学校におけるICTを活用した学習場面		
A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>書籍や写真等を拡大・縮小、画像への書き込み等を活用して分かりやすく指導することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p> <p>A1 教員による教材の提示</p> <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習進捗を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p> <p>B1 個に応じた学習</p> <p>B2 調べ活動</p> <p>B3 思考を深める学習</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による発表交換、発表などお互いの高めあいを促して、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p> <p>C1 発表や話し合い</p> <p>C2 協働での意見整理</p> <p>C3 協働制作</p> <p>C4 学校の壁を越えた学習</p>
<p>B4 表現・制作</p> <p>コミュニケーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B5 家庭学習</p> <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C4 学校の間を越えた学習</p> <p>グループでの分組、協働による作品の制作</p> <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

教育の情報化に関する手引き（追加版）（令和2年6月）
【第4章 第2節 ICTを効果的に活用した学習場面の具体例】

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○ICTの活用場面と具体例

A 一斉学習 C 協働学習

「A表現」 発想や構想をする場面

- ・学習効果を高めるために、大型提示装置やタブレット型端末などを用いて表現



- 方法を提示
- ・制作の過程や作品を撮影し、振り返りや、作品の発表に活用

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

OICTの活用場面と具体例

B 個別学習

「A表現」 発想や構想をする場面

- ・情報収集に活用
- ・タブレット型端末を用いて、構成や配色などを試行錯誤したり、考えを深めたりする



タブレット型端末を活用し、配色計画をしている写真来週の訪問で撮影予定

構成や配色を試す

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

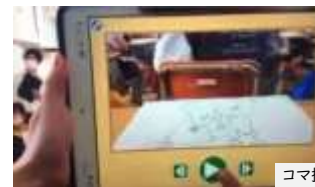
Art

OICTの活用場面と具体例

B 個別学習

「A表現」 表現の可能性を広げ、創造的に表す場面

- ・表現の可能性を広げるために、コンピュータ等の特質を生かした活用



コマ撮りアニメーション

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面と具体例

中学校美術科

タブレット型端末を活用したアニメーションの制作



コマ撮りアニメーション

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面

A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

「B鑑賞」 見方や感じ方を広げたり深めたりする場面

- ・画像や映像を使った効果的な鑑賞指導



見たい部分を拡大して鑑賞

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面

B 個別学習 **C 協働学習**

「**B鑑賞**」 見方や感じ方を広げたり深めたりする場面

- ・インターネットやオンライン会議システム、学習支援ツールの活用など



美術館と教室をつなぐ

オンライン会議システムを用いて美術館とつなぐ

OICTの活用場面と具体例

A 一斉学習 **B 個別学習** **C 協働学習**

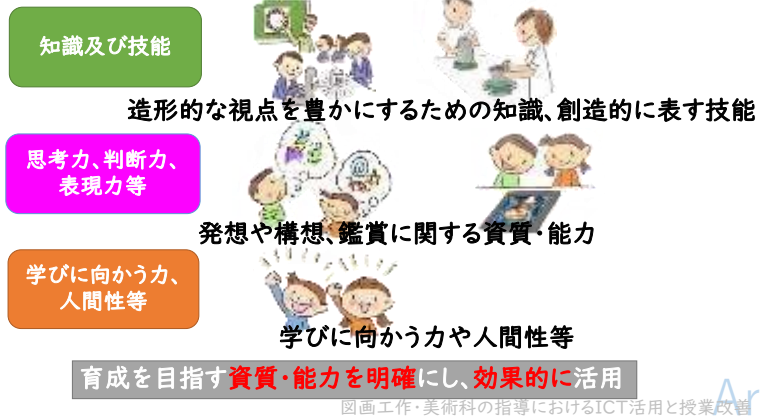
美術の学習の過程で

学習支援ツールを活用した制作ノートや鑑賞ノート

- ・制作途中や完成作品を撮影
→学習過程の写真や〔共通事項〕を踏まえた振り返り等の蓄積
- ・撮影した写真をもとに、発見したことや感じたことを伝え合い、批評し合う。

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 Art

○中学校美術科の指導におけるICTの活用



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 Art

GIGAスクール構想のもとでの中学校美術科、高等学校芸術科（美術、工芸）、高等学校美術科の指導においてICTを活用する際のポイント

美術科、芸術科（美術、工芸）における学習指導要領とICT活用の関係

美術科、芸術科（美術、工芸）においては、ICTを活用する学習活動と、実物を見たり、実物に手を触れたりするなどして感覚で直接感じ取らせる学習活動とを、題材のねらいに応じて併用し、ICT効果を効果的に帯いて指導を行うことが重要である。

例

【作品を撮影、トビリングをする】

【鑑賞：全員先考してPPT構成する】

「A表現」

「A表現」の学習においては、学習効果を高めるために、養育機関などを用いて表現方法を提示するなど、ICTを活用するとともに、美術の表現の可能性を広げるために、効果的に写真・ビデオ・コンピュータなどの映像メディアの積極的な活用を図ることが求められる。映像メディアによる表現は、今後大きな可能性を秘めており、これらを活用することは表現の幅を広げ、様々な表現の可能性を引き出すために重要であるとともに、アイデアを練ったり編集したりするなど、発想や構想の場面でも効果的に活用できるものである。また、生徒の制作の過程や作品をICT端末の方々の機能を使って撮影し、クラウドなどに保存して振り返りの学習に活用したり、作品の写真を大型モニターなどに映し出して発表したりするなどの活用も考えられる。

文部科学省 「studEX style」より

